

佳作

耕野小学校 3年 大槻 陸

表題「ぼくはざりがに」を読んで」

書籍名『ぼくはざりがに』

ぼくは、二年生の時、ざりがにをかっていました。五
ひきかかっていました。でも、全部死んでしまいました。
とても、かなしかったです。「ざりがにをころさないよ
うにしたい。」と思いました。だから、この本を読んで
じょうずにかえるようにしたいと思って手にとりまし
た。

ぼくが好きな場面は、赤ちゃんざりがにがお母さんの
はさみにのっているところです。大きなはさみにのって
いる赤ちゃんは、「ぼくを守ってね。」と言っているよう
に聞こえてきます。お母さんざりがには、大きなはさみ
で守るだけでなく、小さな足で新せんな水を送っていま
す。「強いだけでなく、やさしいなあ。」と思いました。
ざりがには、だっぴして大きくなります。さいしょに、
だんだん体が白っぽくなってきます。背中がわれて、は

じめに頭をぬぎます。それから、背中、はさみ、しっぽ
をぬいで、だっぴの成功です。ぼくは、「だっぴがうま
くいかなかったらどうなるのかな。」と思いました。

ぼくは、だっぴしたことはありません。だから、「だ
っぴできなかったら苦しくないのかな。」と心配になり
ました。

そういえば、ぼくは赤ちゃんの時の服はもう着ていま
せん。幼稚園の時は、むねに阿ぶくま急行の電車がかい
てある服がお気にいりでした。朝起きたら、いつもその
服を着ていました。でも、ぼくはもうその服を着ていま
せん。ぼくが、大きくなったからです。「ざりがにのだ
っぴとぼくの服は同じなんだな。」と思いました。

本には、だっぴして大きくなっていくざりがにのこと
も紹介されています。五年たつと、まっ赤な体とはさ
みになってかっこいいです。

ぼくは、またざりがにとりに行きたくありません。今
度こそ、大きく育てたいです。